

# 関東都市学会ニュース 2024年2月号

(2023-4号)

発行 関東都市学会

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1

関東学院大学社会学部小山弘美研究室内

Tel: 045-374-6047

<E-mail> info@kanto-toshigakkai.com

http://www.kanto-toshigakkai.com

「関東都市学会」郵便振替：00130-9-33044、三菱UFJ銀行麹町中央支店普通口座 0201604

## 【重要】ニュースレター発行方法の変更について（紙媒体での発行の廃止とオンライン化）

これまで本学会のニュースレター「関東都市学会ニュース」は、紙で印刷の上、会員各位に郵送してまいりました。しかしながら、近年の会員減少による会費収入の減少や諸手続きのオンライン化の進展を鑑み、2023年度総会にて決議しました通り次号の2024年5月号をもって紙媒体での発行を廃止させていただきます。今後は、全会員宛のメーリングリストによる配信とホームページへの掲載にて、ニュースレターを発行してまいりますので、よろしくお願いたします。引き続きニュースレターは大会・例会開催の2～3週間前に発行します。

なお、メーリングリストが届いていない方は、事務局（info@kanto-toshigakkai.com）までご連絡をお願いいたします。

関東都市学会研究例会を対面と ZOOM によるオンラインのハイブリッド形式で開催いたします。会員の皆様には、**3月7日（木）までにご参加申込をいただき（対面参加とオンライン参加いずれの場合でも）**、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

全会員宛てに、3月3日（日）までにメールでオンライン参加に必要なIDとパスワードをお送りいたします。学会に登録されているメールが無効である場合はメールが届かない可能性があります。メールが届かなかった場合（学会にメールアドレスを未登録の場合を含む）は、事務局（info@kanto-toshigakkai.com）まで、有効なメールアドレスをご連絡ください。また、研究例会に先立って各委員会・理事会を開催いたします。

### ↓研究例会および委員会・理事会へのご参加申込はこちらからお願いたします↓



または <https://forms.gle/i6N97Ck1jhEX4cer9> にアクセス  
いずれでもお申込ができない場合は、事務局（info@kanto-toshigakkai.com）へ対面とオンラインいずれで参加されるかをメールにてお知らせください。

## 関東都市学会 研究例会

### ※対面と ZOOM のハイブリッド形式

開催日時 2024年3月10日（日） 14:45～18:00

開催場所：【対面】日本大学文理学部キャンパス 本館4階学生実習室（大）

【オンライン】ZOOM ミーティング

#### 【報告】

「子どもの間食行動に着目した近代都市の食文化形成についての考察

—大正・昭和前期の東京を対象として—

宮本 匡（法政大学大学院）

「日本と韓国の高齢者と文化福祉政策に関する研究」

陸 善（和光大学／法政大学大学院）

「教育委員の属性の研究—東京都教育委員会の歴代教育委員の事例を中心として—」

竹内 真雄（東京都庁）

#### 【研究活動委員会 ラウンドテーブル企画「都市をめぐる研究・教育・実践のいま」第3回】

話題提供：浦野 正樹（早稲田大学名誉教授）

司会：野坂 真（早稲田大学）

## 関東都市学会理事会・各委員会開催のご案内

開催日時 2024年3月10日(日)

※対面(会場は研究例会と同じ)とZOOMのハイブリッド形式

【編集委員会】 10:00～11:00

【研究活動委員会】 11:00～12:00

【理事会】 12:30～14:30 議題：2024年度関東都市学会春季大会について、他

\*理事・委員の先生方へ：理事会および各委員会で配布されたい資料は、事前にそれぞれのメーリングリストと事務局メールアドレスにお送りいただけますようお願いいたします。

### 【3月10日開催研究例会の会場について】

会場：日本大学文理学部キャンパス 本館4階  
学生実習室(世田谷区桜上水3-25-40)

アクセス：京王線・東急世田谷線「下高井戸駅」より  
徒歩8分 or

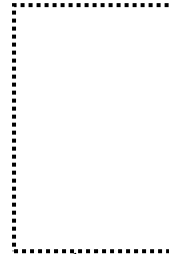
京王線「桜上水駅(急行停車駅)」より  
徒歩8～10分 or

小田急線「経堂駅」より徒歩20～25分

\*アクセスマップ <https://chs.nihon-u.ac.jp/about/access/>

\*キャンパスマップ <https://chs.nihon-u.ac.jp/about/campus/>

備考：日曜開催のためキャンパス内の食堂等は休業日です。特に理事・委員の先生方は昼食をご持参くださいますようお願いいたします。



<会場周辺地図>

<キャンパスマップ>

地図(略)

## お知らせ・募集

### 【2024 年度関東都市学会春季大会の予告】

2024 年度関東都市学会春季大会を、「都市」で働き暮らすことの現在：「職住」関係再編下における「地域の居場所」構築に向けて」を仮テーマとして、5月18日（土）に東洋大学白山キャンパスにて開催いたします。是非スケジュールをお空けいただき、ご参加ください。対面と ZOOM のハイブリッド形式での開催を予定しております。

### 【2024 年度関東都市学会春季大会の自由報告募集】

5月18日（土）の春季大会における自由報告を募集します。報告を希望する方は、「報告タイトル」「報告内容の概要（300字前後）」「報告者氏名及び所属・連絡先」を明記の上、3月7日（木）（締切厳守）までに関東都市学会事務局必着にてご応募ください。応募は電子メールによるものとします。当日はハイブリッド形式で開催しますが、報告者は対面にてご参加いただきます。

春季大会で自由報告を行うと、報告内容を関東都市学会年報または日本都市学会年報に論文として投稿することができます。2024年度の投稿締め切りは、関東都市学会年報の「自由投稿論文」（査読付）が2024年6月末、日本都市学会年報の「審査論文」が2024年11月末です。なお、いずれも日程は予定ですので、詳しくは Web サイト・今後の会報等で各自ご確認ください。

また、論文発行時に39歳以下の場合、日本都市学会年報または関東都市学会年報に掲載された論文（単著、あるいはファーストオーサーの共著）は、日本都市学会論文賞の選考対象となります。ふるって春季大会自由報告にご応募ください。

### 【2024 年度日本都市学会賞推薦候補図書募集】

日本都市学会では、毎年大会時に日本都市学会賞（奥井記念賞）を選定しておりますが、その選定にあたり各地方都市学会から候補作品（最大3点まで）を推薦することになっております。2024年度についても例年どおりの手続きで進められます。関東都市学会として2024年度の日本都市学会賞候補作としてふさわしい推薦図書を選定するにあたり、会員から次の要領で推薦を公募し（自薦・他薦を問いません）、それを踏まえて選考作業を理事会内で行うことにいたします。

#### （1）候補作品の対象

2022年1月1日～2023年12月31日（奥付記載日）に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等

※日本都市学会賞（奥井記念賞）の推薦要件については、日本都市学会ホームページ <http://www.toshigaku.org/>を参照。

#### （2）推薦書類等提出物

推薦文（400字程度）及び該当図書2冊（審査後必要であれば返却）

#### （3）締切

2024年3月7日（木）必着

#### （4）提出先

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1

関東学院大学社会学部小山弘美研究室内 関東都市学会事務局 宛

日本都市学会賞には特別賞（外国語著作賞、学術共同研究賞、まちづくり賞）の部門もあります。2021年1月1日から2023年12月31日の3年間に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等が対象です。こちらについても情報をお持ちの方は事務局までお寄せください（書式自由）。なお、外国語著作賞については、昨年11月20日に事務局から全会員宛のメーリングリストにて送信した「関東都市学会 今後の活動予定のお知らせ（ニュースレター9月号に代えて）」（※正しくは「11月号に代えて」です。誤字があり失礼いたしました）でご案内したように、1月7日にエントリーを締め切っております。

## 【関東都市学会年報について】

関東都市学会年報第 25 号の発刊は 2024 年 4 月を予定しております。2024 年 4 月中には会員各位のお手元にお届けできるよう、作業を進めております。いましてばらく、お待ち願います。

## 【関東都市学会ホームページ リニューアルのご報告】

ニューズレターの理事会報告および 2023 年度総会にてお知らせしておりました通り、本学会ホームページのリニューアルを、理事数名から成るワーキング・グループにて進めて参りました。おかげさまでもちまして、2023 年 12 月 27 日より新しいホームページを運用開始できました。

ホームページの URL には変更はなく、基本的に、これまでと同じ方法にてアクセスしていただければ、リニューアル後のホームページをご覧いただけます。ただ、お使いの PC 等の設定によっては、旧ホームページが表示される場合があります。その場合は、キーボードの「F5」ボタンを一度押していただければ、新ホームページへ切り替わります。

## 【2023 年度会費未納の方へのお願い】

2023 年度の関東都市学会会費をまだ納めておられない方は、是非 2024 年 3 月 7 日（木）までにお納めいただくようお願いいたします。

なお、2 年度以上にわたって会費を滞納された方は、関東都市学会から日本都市学会本部に向けて提出する「年度ごとの会員申告名簿」から自動的に削除され、日本都市学会年報及び日本都市学会ニュース等が届かなくなるといった支障が生じます。原則 4 年度以上にわたって会費を滞納された方に対しては、除籍の措置をとらせていただいております。また、関東都市学会では、当該年度会費の納入を年報配布の条件としております。このような点もご考慮いただき、過年度分会費の納入にご協力くださいますようお願いいたします。

会費支払と会員資格（関東都市学会及び日本都市学会）に関してのお問合せは、関東都市学会事務局まで文書あるいは E-mail でお願いいたします。

### 会員の異動

- 入会（2024 年 1 月 21 日付）  
（略）

### 2023 年度第 3 回理事会報告

2024 年 1 月 21 日に Zoom によりオンライン開催された 2023 年度第 3 回理事会の主な議事内容は次の通りです。

- 3 月研究例会について
  - 2024 年 3 月 10 日（日）に対面と Zoom のハイブリッド方式で開催することが確定した。
- 2024 年度の大会および研究例会について
  - 2024 年度春季大会の仮テーマを「都市」で働き暮らすことの現在：「職住」関係再編下における「地域の居場所」構築に向けて」とすることが確認された。また、大会当日のスケジュールとシンポジウムの司会およびコメンテータを次回の理事会で確定することが確認された。
  - 2024 年度秋季大会は水戸市での開催を検討していく方向性が示された。テーマとしては、中心市街地のコンパクト化と限界、ネットワーク型コンパクトシティ、震災関連（能登半島地震に伴う職員の派遣、市営住宅での避難者受け入れなど）などを念頭に今後検討していくことが確認された。
  - 9 月および 3 月例会を例年通り開催することを確認した。
- 研究活動委員会から
  - 今後の研究例会および大会について、上記の通り検討および確認された。

#### 4. 編集委員会から

- ・年報 25 号の編集の進捗状況と、2024 年 4 月に刊行および会員向けに配布を目指して編集作業が進められていることが報告され、了承された。
- ・年報の組版・編集作業は人員的・時間的に負担が大きいと、編集作業を外部委託するというこれまでの理事会での決定により、第 25 号から組版・編集作業を外部委託することが報告された。
- ・今後の年報のオンライン発行について、2024 年度総会に向けて、次回以降の編集委員会および理事会にて具体的に検討を進めることが確認された。

#### 5. 日本都市学会理事会から

- ・能登半島地震への日本都市学会の対応として、ホームページでお見舞いを掲載したことと、会費の減免等は各地域都市学会で検討することが確認された旨、報告された。
- ・学会の活性化委員会の立ち上げに向けて、各地域都市学会から若手もしくは中堅から会員 1 名を選出することとなり、関東都市学会からは小山理事を選出したことが報告された。
- ・『日本都市学会年報』56 号が刊行されたことが報告された。

#### 7. 事務局から

- ・2024 年度日本都市学会賞・学術共同研究賞・まちづくり賞について、引き続き募集を行うことが確認された。論文賞候補については、例年通り事務局で候補論文の抽出を行い、1 件を推薦することが承認された。外国語著作賞については推薦が 1 件あり、関東都市学会から日本都市学会の学会賞担当へ推薦することが決定された。
- ・4 ページの通り、入会について承認された。
- ・4 ページの通り、学会ホームページがリニューアルされたことが報告され、情報発信など運用について次回以降の理事会にて検討していくことが確認された。
- ・ニュースレター発行のオンライン化に伴い、会費の請求方法について次回以降の理事会にて検討していくことが確認された。

#### 8. 能登半島地震の取り上げ方について

- ・3月10日の研究例会でのラウンドテーブルにて、浦野理事に論点整理をしてもらうことが決定した。それ以降もどのように学会として取り上げていくか、継続して研究活動委員会および理事会にて検討することが確認された。

### 関東都市学会 2023 年度第 1 回研究例会（2023.9.17）の記録

#### 2023 年度関東都市学会第 1 回研究例会印象記

谷 公太（株式会社イーガオ）

杉平敦氏（帝京大学）による第 1 報告では、歌謡曲における街区（浅草と銀座）のイメージの分析が行われた。その結果、先行研究が指摘する浅草から銀座への盛り場の変遷に対応せず歌詞におけるキーワードは交換可能であること、しかし 1960 年前後に浅草がレトロなイメージを強調するようになったことなどから、歌詞のなかで語られる都市を、その時々の実態とは切り離して、ある時代における「夢」を受け入れる自立的なものとして扱う方針が示された。フロアからの指摘もあったようにテキストマイニングを用いたアプローチをとる場合も、歌詞から都市にかんする知見を引き出す際には、本論は重要な示唆を与えるものであると思われた。

大塚匠氏・鈴木健氏・中上俊介氏・藤田恵弥子氏・柳原茜氏（京都芸術大学）による第 2 報告では、中央区新川・佃・湊地域を対象として、利活用が進んでいないために住民にとって水辺に近いはずなのに遠い存在になっている課題がまず抽出された。そこで現在の行政区単位をこえた「江戸湊」としての独自性を確立するために、活用すべき文化資産を 6 つに整理したうえで、住民と水辺の関係性構築への提案が示された。K. リンチ『都市のイメージ』の概念を使うなら、水辺が交通のバスから行政区画に対応するエッジに後景化した現在、橋詰広場（＝ノード）の活性化などの契機を通して、江戸湊なるディストリクトを確立しようとする試みなのだと感じた。

河承希氏（法政大学大学院）による第 3 報告は、メディアの影響による観光の活性化が継続し、オー

バーツリズムによる都市再生が失敗した事例として鎌倉市の鎌倉高校前駅を、対して久喜市の鷲宮神社を成功事例として取り上げた。住民-自治体-観光客間の相互作用を分析した結果、観光の活性化は都市再生につながるわけではないという。私見ではハロウィンの時期に渋谷駅周辺にやってくる群衆のコントロールについて、どのように行うのか、誰が費用を負担するのか等、鎌倉の事例に類似した課題が多い（こちらも近年、外国人観光客の注目を集めているという）ように感じ、本研究はコンテンツツールの文脈にとらわれない意義を有しているように思われた。

研究活動委員会による第2回目のラウンドテーブル企画による報告は、野坂真氏（早稲田大学）からなされた。地域社会学や災害社会学に携わってきた報告者の足跡を辿りながら、とくに災害復興におけるコミュニティの変動過程に関する研究から①場が持つ機能の複合性、②レジリエンスが活性化する際の「思考の習慣」、③後方支援地を「長い時間軸で考える」必要性、という知見が共有された。また③で対象となった盛岡市は歴史・文化を活かした地方都市としても着目すべき事例であり、その点からも論点が提示された。提供された話題が豊かであっただけに時間の制約が惜しまれたが、限られたなかでもフロアからは活発な意見が展開された。